

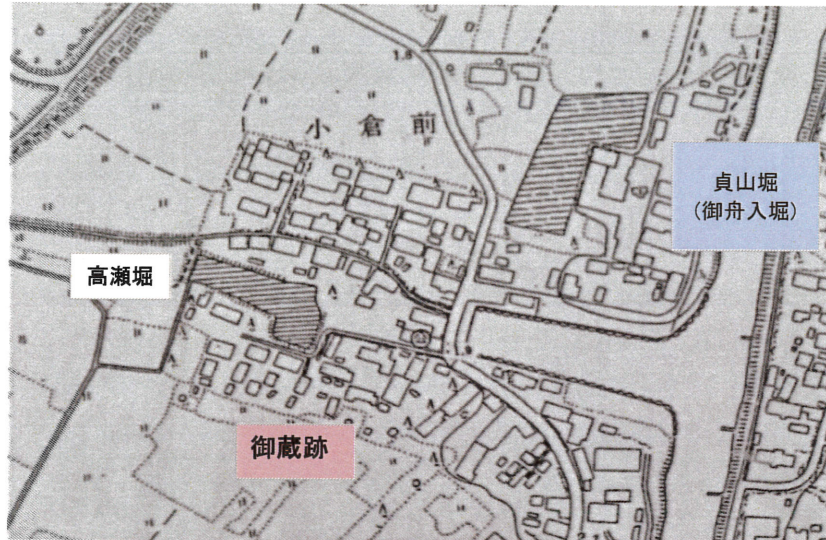
がもう おくらあと 蒲生御蔵跡第1次発掘調査 遺跡見学会資料

～仙台藩河川交通における物資集積地の調査成果～

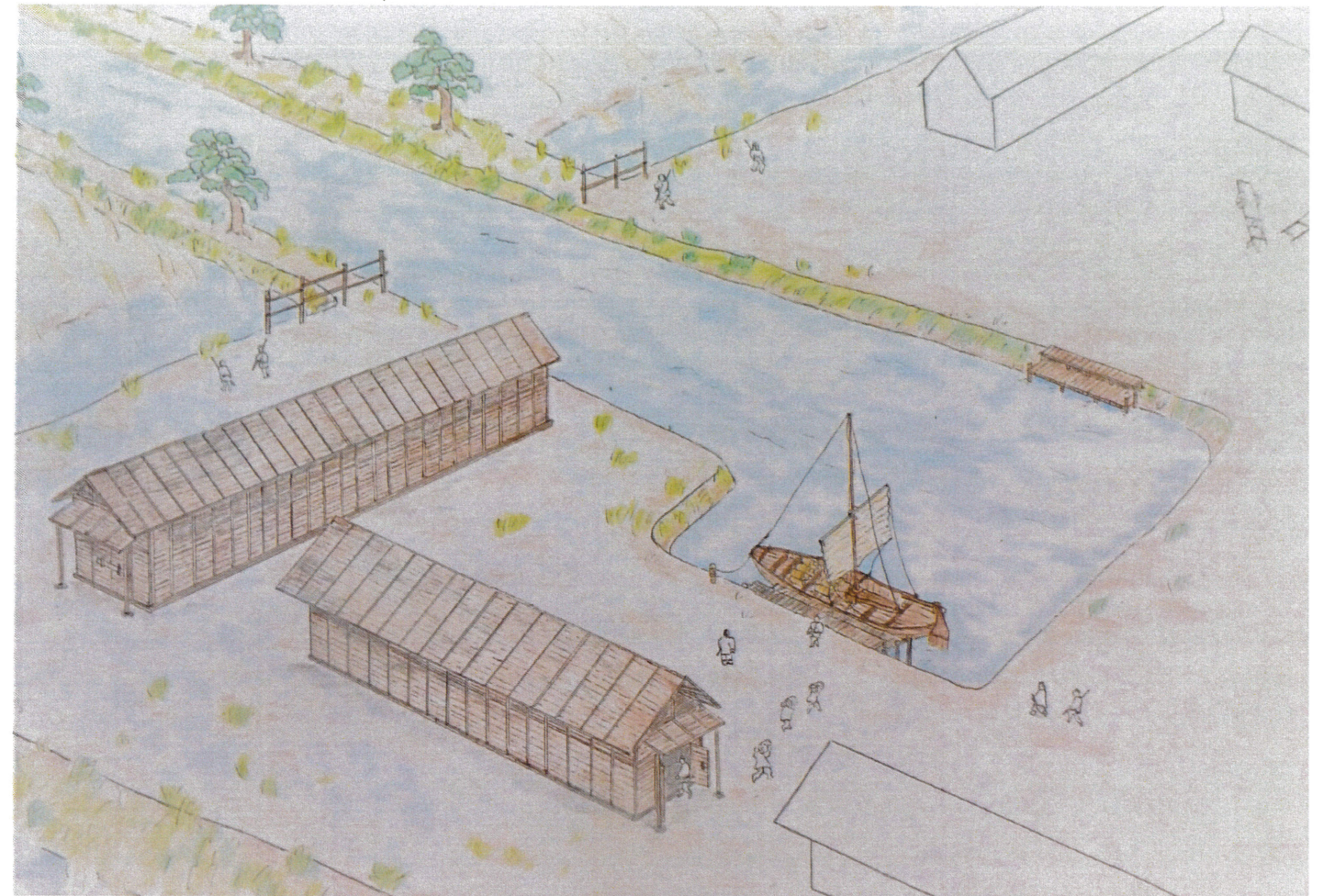
仙台市教育委員会文化財課 令和4年10月29日(土)

調査要項

遺跡名	蒲生御蔵跡
所在地	仙台市宮城野区蒲生3丁目9-1
調査原因	物流倉庫建設工事に伴う本発掘調査
調査面積	3,389㎡
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	生涯学習部文化財課調査指導係
調査支援	株式会社アコード
調査期間	令和4年5月25日(水)～12月(予定)



(昭和27年、都市計画図から作図)



蒲生御蔵復元想像図

主な調査成果

- ①蔵と考えられる7棟の建物跡を調査しました。建物は厚さ50cmほど整地したエリアに複数回建て替わっています。今回発見した建物跡は、建物の基礎にあたる部分で、建物の土台を固定するために溝が掘られ、丸太や丸太杭が据えられていた跡を確認しました。この上に横木を渡し、その上に建物の柱や壁が建てられていたと考えられます。
- ②土坑(SK21)から150点ほどの木簡が出土しました。の中には文字が書かれているものが約半分くらいあります。これらは荷札木簡と考えられ、これからの分析で、御蔵場での流通に関わる「もの」、「人」、「地域」などが明らかになるかもしれません。

出土した荷札木簡

荷札とみられる「細い短冊形の木簡」、「下がとがり品物のくり紐に直接刺すことができる木簡」、「上部に丸い小さな穴があり紐をつけられるようになった木簡」が出土しました。今回出土した木簡の内容はこれから解読していきます。平成27年の試掘調査では、地名や人名が書かれた木簡が見つっています。



蒲生御蔵跡について

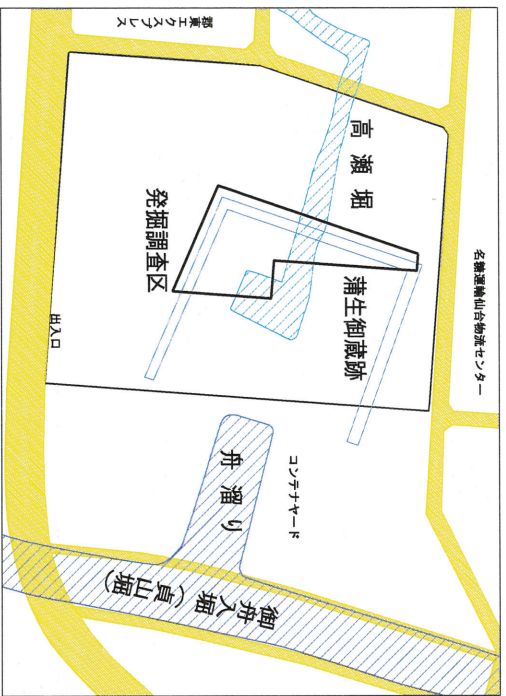
蒲生御蔵跡は、江戸時代に米や塩などの仙台藩北部の物資を仙台下へ運ぶ水運の拠点でした。塩釜湊と「御舟入堀」、七北田川と「高瀬堀」によって結ばれていました。蒲生御蔵からは高瀬堀と七北田川を遡り「鶴巻御蔵」、船曳堀を上り「苦竹御蔵」、その後陸路で「原町御蔵」を経由し、品物が仙台下へ運ばれました。明治6年の記録には、米蔵や塩蔵があったことが記されています。



参考文献

- 菅野正道2021.3『海辺のふるさと—仙台市東部沿岸の歴史と記憶』せんだい3.11メモリアル交流館
- 仙台市史編さん委員会2001.9『仙台市史』通史編3 近世1、仙台市
- 仙台市教育委員会 2018.3『仙台市文化財調査報告書464: 貞山堀・蒲生御蔵跡ほか』仙台市教育委員会

蒲生御蔵跡第1次発掘調査



SK 21 木簡 (1層下部) 出土状況 (南から)



SB 9 東側抗列断面 (東から)



SB 9 東側抗列断面 (北から)



SB 13 木材出土状況 (南から)



SB 13 木材出土状況 (北から)



SD 5 高瀬堀 (東から)



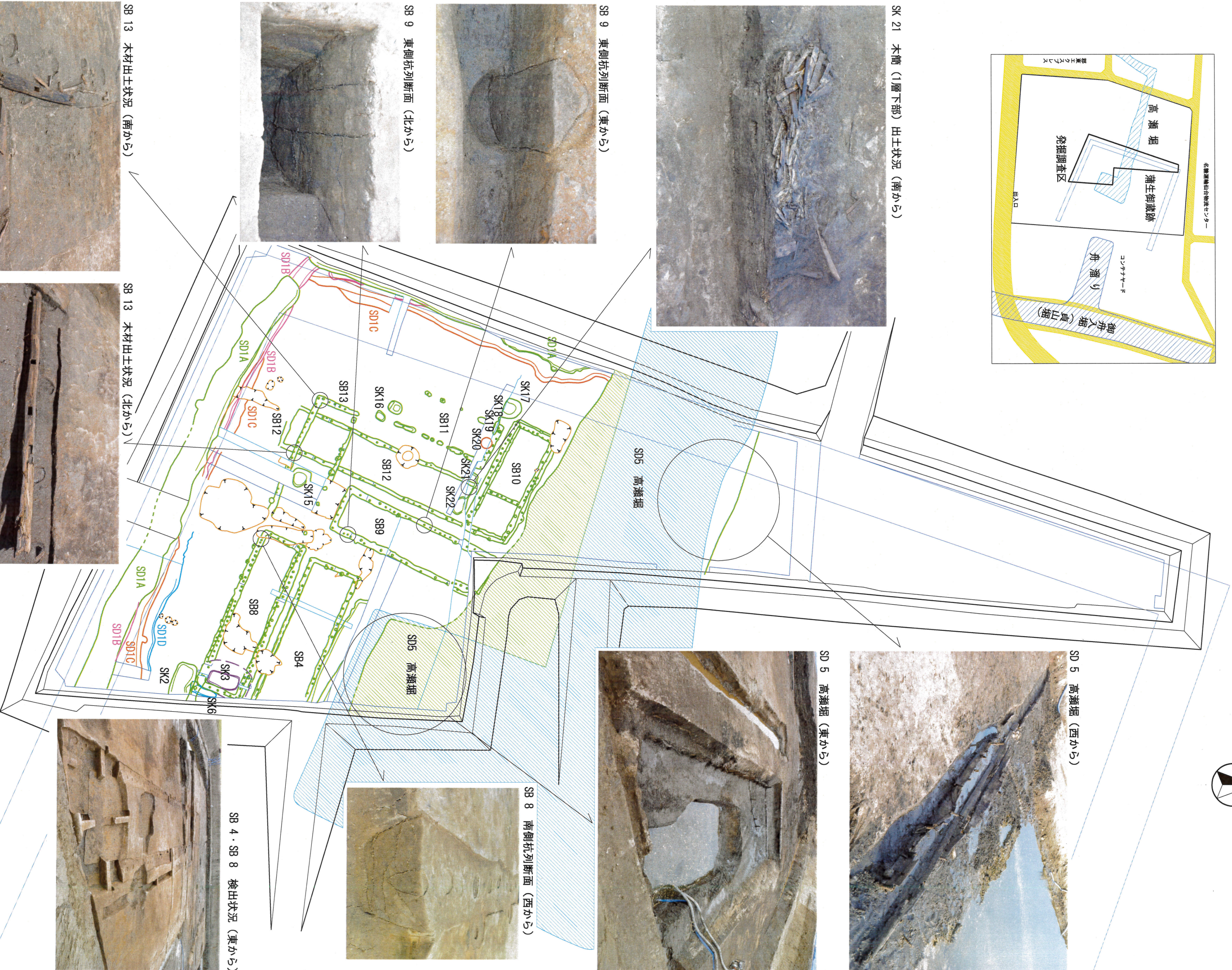
SD 5 高瀬堀 (西から)



SB 8 南側抗列断面 (西から)



SB 4・SB 8 検出状況 (東から)



0 (S=1/400) 20m